

JAMA電子情報フォーラム 2 0 1 6

ビジネスシステム(BS)部会 活動概要

一般社団法人 日本自動車工業会

電子情報委員会 ビジネスシステム部会 部会長 小山 幸雄

2016年2月19日



- 1.ビジネスシステム部会の役割と体制
- 2. ビジネスシステム部会の歴史
- 3. 直近の活動実績(2014年度、2015年度) と今後の活動について
- 4. ビジネスシステム部会の方向性

1.ビジネスシステム部会の役割と体制



電子情報委員会

電子情報企画部会

ビジネスシステム部会

デジタル エンジニアリング部会

<役割>

ビジネス分野における電子情報の標準化推進

- ・ビジネス関連プロセスやツールなどの標準化、共通化を検討、推進
- ・ビジネス系IT分野の調査・研究
- ・標準の維持・普及
- ·グローバル標準の開発、管理 ^(注)(欧州(ODETTE)、米国(AIAG)と合同フォーラム(JAIF)で協議)

(注)

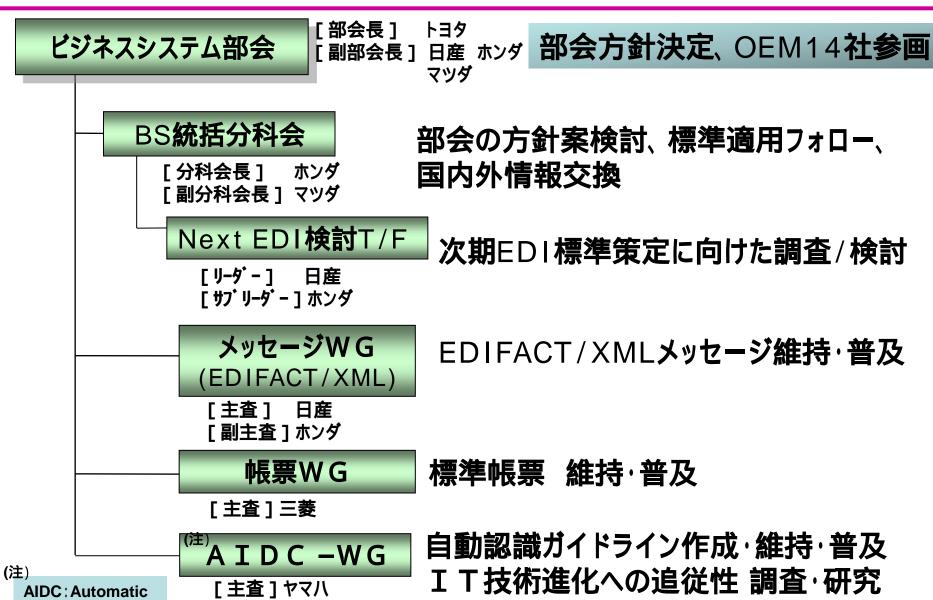
ODETTE: Organization for Data Exchange by Tele-Transmission in Europe

AIAG: Automotive Industry Action Group

JAIF: Joint Automotive Industry Forum

1.ビジネスシステム部会の役割と体制(2015年度体制)





Identification and

Data Capture



- 1.ビジネスシステム部会の役割と体制
- 2. ビジネスシステム部会の歴史
- 3. 直近の活動実績(2014年度、2015年度) と今後の活動について
- 4. ビジネスシステム部会の方向性

2. ビジネスシステム部会の歴史(概要)



自工会では90年代前半にデータ交換(EDI)標準化検討を開始し、98年に電子情報委員会EDI部会を設立。06年にはビジネスシステム部会となりビジネス分野EDI標準化に取り組んでいます。

年代	1994年~	1998年 ~	2006年 ~
活動体制	電子情報交換標準 検討会(EDI標準 化検討会)	電子情報委員会 EDI部会	電子情報委員会 ビジネスシステム部会
+	·自動車業界EDI 標準化検討開始 →経産省推奨のCII	·欧州(ODETTE)、米国 (AIAG)採用予定の EDIFACT検討開始(98/4)	・日米欧3極(JAIF)でEDIFACT維持・ 管理 ・EDIFACT実態調査(2006)
主要取組活動	実証検証、結果 芳し〈な〈採用に 至らず	·2000年電子情報委員 会でEDIFACTを業界標 準に決定 ·2003年導入開始	・EDIFACT普及促進セミナー ・XML標準作成、中小企業対策検討 ・RFID適用ガイドライン作成と8ビット 格納ISO改訂提案
		・EDIFACT関連各種ガイドラ インの作成、展開	·自動車業界次期EDI検討開始(2014年度~)

2. ビジネスシステム部会の歴史(年表)



						***************************************	W. 100 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1.500 (1	0.11221/W0024-1421/02/02/12/12/12/12/12/12/12/12/12/12/12/12/12
年度	1995 ~ 2000	2001 ~	2010	2011	2012	2013	2014	2015
体制	1998/4 電子情報委員会設立 1998/4 EDI部会設立	200	06 ピジネスシステム部会					
調	V-CALS(CII) UN/EDIFACTの検討	内外動向調査	1	中国実態把握	5	7イ実態把	2握	欧州実態把握
査		e-Japan研究	電子タグ研究		ビジネス	くインフラ	次排	期EDI検討
研 究	業界標準 E DIの選定	XMLの研究	E .	統一企業	コードの研	f究		
+200	標準帳票 標準メッセージ EDIFAC	Tガイドライン	2003年3月発行	R F I	Dガイ			
標準策定	標	準ガイドラ <mark>インの改訂 </mark>	EDIFACT	「ガイドライン2		改訂		暖別)ガイドライン
策定		I調査による Web-E		/eb-EDIガイト 行 の信検討	・ ライン 201	10年3月第	発行	
	業界標準 E DIの作成	標準と	XMLガイドライン		イドライン2	2011年5月	発行	
利	E	DIFACT実用化	DIFACTの実用化	入先間I	取引支援			
利 実活 用化拡		EDI煙準帳亜	部工会コンソーシ	アム支援				
花鉱	業界標準EDIの現場展開	標準帳票	ツ夫市に	実用化検討■				
	未,产生,产生,产生,产生,产生,产生,产生,产生,产生,产生,产生,产生,产生,		G-KFID標準の国					
維持	EDIFACTガイドラ・ 標準帳票ガイドライン ■	イン	XMLガイドライ		## ##		••••	
-			グローバルXMLガイドライ	ע'				
保 守	業界標準の維持・保守	コーバルEDIFACTガイド	ライン アイテムレベル電	【子タグ標準■				
禹	グローバルEDIFACT		輸送容器用電子タグ標準	化 2010年4日日	I— I —È∓∏C			
国際 調和								
調和	E DIの国際標準対応	グロ ・	-バルXML構築			RF	ID国際相	票準検討

2. ビジネスシステム部会の歴史



標準化活動と主要成果物

<参照先:自工会Webサイト>

http://www.jama.or.jp/it/biz_sys/index.html

1	ビジネスプロセス定義	取引情報標準書
2	EDI標準化対応 (帳票)	標準帳票ガイドライン 現品票 かんぱん 納品書 受領書
3	EDI標準化対応 (メッセーシ [*] :EDIFACT)	UN/EDIFACT(99版、07版)導入ガイドライン DELFOR :注文情報 PROTAP :カレンダー情報 DELJIT :納入指示情報 APERAK :メッセージの受信状況返答情報 DESADV :出荷情報 CONTRL :メッセージの受信状況情報 RECADV :受領情報 OSTENQ :納入計画確認、納入進捗確認 納入督促情報 INVOIC :買掛金明細情報 OSTRPT :納入計画回答、納入進捗回答 有償支給明細情報 納入督促回答情報
4	Web-EDI対応	Web-EDI ガイドライン
5	EDI標準化対応 (メッセーシ [*] :XML)	XML導入ガイドライン SyncPlanningSchedule : 注文情報 SyncShipmentSchedule : 納入指示情報 SyncReceiveDelivery : 受領情報 ProcessInvoice : 買掛金明細情報、有償支給明細情報 SyncCalender : カレンダー情報 SyncOrderStatusEnquiry : 納入計画確認、納入進捗確認、納入督促情報 SyncOrderStatusReport : 納入計画回答、納入進捗回答、納入督促回答情報
6	RFID利用対応	輸送容器用電子タグ適用ガイドライン (日本語版) RFID完成車物流適用ガイドライン Copyright (C) Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.201



- 1.ビジネスシステム部会の役割と体制
- 2. ビジネスシステム部会の歴史
- 3.直近の活動実績(2014年度、2015年度) と今後の活動について
- 4. ビジネスシステム部会の方向性

3.直近の活動実績(2014年度、2015年度) と今後の活動について



<中計 2014年度~2016年度作成とその主旨>

自工会EDI標準(EDIFACT)普及と中小企業EDI化促進検討個品識別(RFID活用等)適用ガイドライン検討 国内外動向把握とグローバル標準への対応

<中計の施策>

年表テーマ	主旨との関連	施 策
調査·研究		・海外動向調査、新興国(タイ)の標準化状況把握
標準策定	•	·簡易XMLガイドライン作成 ·中小企業向け標準帳票検討·開発 ·個品識別RFIDガイドライン検討
利活用拡大 実用化		・EDI普及セミナー
維持·保守		·EDIFACT、XMLガイドライン改訂 ·標準帳票ガイドライン改訂
国際調和		・グローバル標準ガイドライン維持・管理

ご参考:中期計画2014年度~2016年度(作成当時)

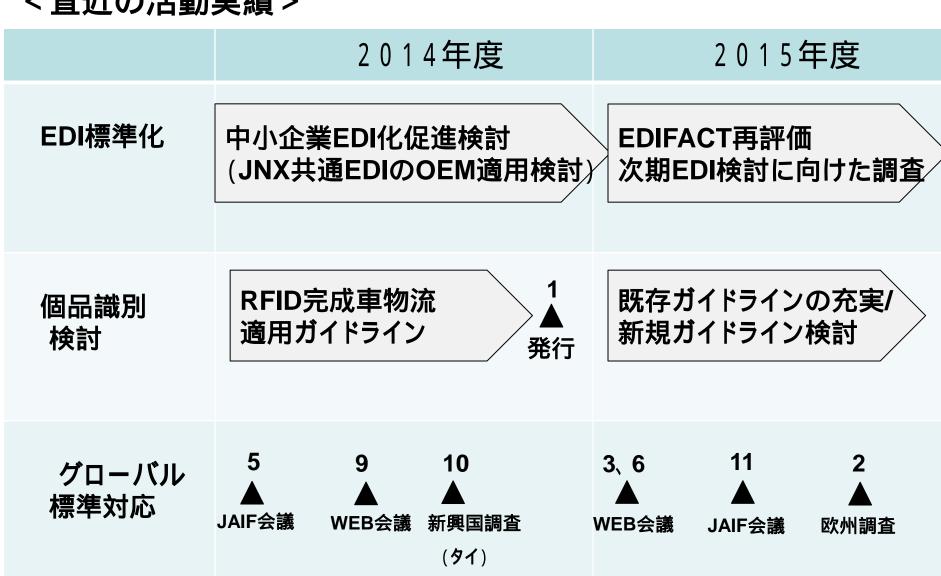


テーマ	2014年度	2015年度	現時点	2016年度	4	明末の目標	
ビジョン実現		標準	普及ブランの	シブランの検討		20年ビジョン実現に ナた普及プランが完成	
に向けた施 策立案	デジタ)	レコラボレーション施策	こ基づく見直	¢/////////	V La	している	
	グロー	-バル標準ガイドライン(の維持管理			─────── 変更に伴うメンテナン 迷続	
国際対応		新規標準の検討			n 新	ロスペラ 現提案に基づ〈国際標 の検討	
	簡易XMLガイドライン作成	簡易XML実証検	証 簡	易XMLガイドライン改訂	n 中	ー 小向け簡易XMLガイド (ンの発刊	
	標準帳票ガイドライン改訂	中小向け標準帳票	検討	7小向け標準帳票開発	-	小向け標準帳票の開	
	個品識別RFI	Dガイドライン			n 国i **	内適用ガイドラインの Fil	
標準化企画		RT	RFID <mark>ガ</mark> イド	ライン			
	受発注プロセス把握	受発注プロセス明確	化		n 中	小の受発注プロセスの把	
		Web-EDI画面統一	検討	ガイドライン整備		面統一ガイド発刊	
Ž	統一企業コード対応ガイドライン		i			ー企業コードガイドライ D完成	
 標準の	標	準帳票ガイドラインの約	推持·改打) n =-	- ズに基づく改訂	
維持·改善	EDIE	ACT/XMLガイドライン	の維持改訂) n =-	- ズに基づく改訂	
 標準の	関連的	団体との協調による標準	きき ひの 定着		n 定	朝調査	
普及·徹底	EDI普及 フォーラム セミナー	EDI普及 フォーセミナー	•	DI普及 ^{フォーラム} :ナー	n BS	部会活動の見える化	
国内外	海外カンファレン	」 スへの参加と、必要にM	なじて日本の	ニーズ反映	<mark>}</mark> n 海	外動向調査継続	
情報交換		国内他業界との情報	交換		,	業界との意見交換 urers Association. Inc.:	

. 直近の活動実績(2014年度、2015年度) と今後の活動について



<直近の活動実績>



3.直近の活動実績(2014年度、2015年度) と今後の活動について



- <今後の活動について>
 - ①EDI標準化
 - ·EDIFACT標準導入から10年以上経過しOEM/T1間では普及したが、業界全体には普及が進まず自工会の推進活動も休止状態
 - ⇒EDIFACT普及と中小企業に特化した対策から自動車業界全体 の次期EDI検討に方向性を修正

	実施事項	今後の活動
EDI 標準 化	中小企業EDI化促進検討 ・簡易XML、中小向け帳票を検討 →標準案作成したが展開まで至らず 次期EDI検討に向けた調査 ・EDIFACT実態調査をレビュー →EDIFACT導入効果も一部企業のみ ・BS部会のEDIFACT実態調査 →EDIFACTが難しく、有識者育成に苦戦	・自動車業界全体の次期 EDI検討 →部工会と連携して推進 →中小企業にも導入し易 い標準 →EDIFACT活用方法の 見直し

3.直近の活動実績(2014年度、2015年度) と今後の活動について



<今後の活動について>

- ②個品識別検討 / ③グローバル標準対応
 - ・中計シナリオ通り個品識別検討とグローバル標準対応を推進

		14. 1 . 4. 2 . 2
	実施事項	今後の活動
個品 識別 検討	個品識別ガイドライン作成 ・「RFID完成車物流適用ガイドライン」を作成 し2014年度末に発行	・既存ガイドライン充実と 新規ガイドライン検討
グロー バル 標準	グローバル標準ガイドライン維持・管理 ・JAIFを通じてRFID8ビット格納のISO改訂 を推進 →欧米6ビット格納に追加を要請・承認	·RFID8ビット格納のISO 改訂推進 (2018年度目標)
対応	·EDIFACT新データ種(在庫情報)を検討	・グローバルEDIFACT への対応方針検討 (欧州の動向を注視)



- 1.ビジネスシステム部会の役割と体制
- 2. ビジネスシステム部会の歴史
- 3. 直近の活動実績(2014年度、2015年度) と今後の活動について
- 4. ビジネスシステム部会の方向性

4. ビジネスシステム部会の方向性



2020年自動車業界全体の電子情報の標準化のありたい姿を 具体的にしてそれに至るシナリオを作成し推進してまいります

実現に向けて

EDI標準化

部工会と協力して自動車 業界全体が活用できる 次期EDI標準を検討する

- ・標準化効果の創出
- ・自動車業界参加者が 誰でも簡単に使えるEDI

個品識別検討

個品識別ロードマップを 整理し完成車の次の ガイドラインを作成する

- ・既存ガイドライン改善
- ・次のガイドラインの検討 (2輪車、輸送容器、部品)

グローバル 標準対応

JAIFを通じて国際標準 改訂に対応する

- ・RFID8ビット格納 ISO改訂推進
- ・個品識別ガイドライン改訂 対応
- ·EDIFACT改訂対応



ご清聴ありがとうございました。

引き続きJAMA活動へのご理解とご協力を 宜しくお願い致します。